

業 務 名

交通環境の整備

○業務に関する統計

項 目	統 計 の 推 移				
交通信号機の新設整備基数	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	単位
	57	113	28	35	基
交通信号機の高度化改良・更新基数	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	単位
	182	198	125	198	基
大型道路標識・路側道路標識の整備本数	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	単位
	5,727	3,911	3,676	3,781	本
交通情報収集提供装置の整備基数	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	単位
	74	91	54	60	基

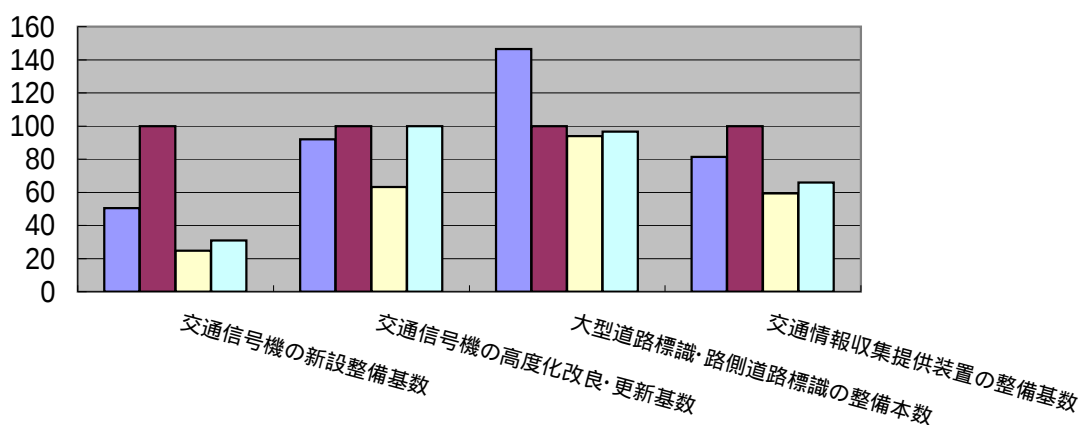
統計の推移

■平成13年

■平成14年

■平成15年

■平成16年



< グラフは、平成14年を100とする指数で表した。 >

○業務の主なコスト

№	事 業 名	平成16年度事業費(千円)	平成17年度事業費(千円)
1	国補交通管制センター設置費	368,705	277,834
2	国補交通信号機設置及び改良費	213,886	126,406
3	国補道路標識設置費	10,443	20,505
4	国補交通安全施設調査費	14,368	10,182
5	安全・安心交通環境整備事業費	64,128	73,216
6	県単交通信号機設置費及び改良費	203,699	93,235
7	道路標識設置費	95,364	64,503
8	道路標示塗装費	148,792	109,679
9	交通安全施設地中化事業費	30,000	57,200
10	パーキングメータ等維持管理費	68,148	61,387
11	交通安全施設維持管理費	660,361	686,964
12	交通事故抑止緊急事業費		189,765
合 計		1,877,894	1,770,876

○平成16年の取組み

- 依然として高水準で推移する交通事故発生状況の下、交通事故の犠牲者を一人でも減少させるため、関係機関・団体等との連携を強化し、県民生活に適応した交通環境の整備に努めた。
- UTMS（新交通管理システム）及び交通管制システムの高度化、交通情報収集・提供装置の整備、騒音・振動・排気ガス等交通公害を低減させるための道路交通の最適化など、IT化による道路交通の安全と円滑化及び交通公害対策を推進した。
- 「あんしん歩行エリア」の整備、高齢者・障害者・歩行者等が利用しやすいバリアフリー対応型信号機の整備、歩行者・自転車を保護する交通規制の実施及び道路管理者等関係機関と連携した面的・総合的な事故防止対策など、歩行者等にとって安心な交通環境の確保及び交通事故の防止対策を推進した。
- 見やすく分かりやすい道路標識・標示の整備、交通の実態に応じた交通規制の見直し、効果的な交通規制の実施、コミュニティゾーン等の整備、交通安全総点検の実施及び交通事故多発箇所対策の推進など、総合的な交通規制等を実施した。

○課題を踏まえた平成17年の取組み

- 信号機の新設・改良、規制標識等の整備を計画的に推進するとともに、安全・安心交通環境整備として、「あんしん歩行エリア」地区内において、道路管理者等関係機関と連携し、高齢者や障害者等が利用しやすい交通安全施設の整備、交通規制による歩行者、自転車等の保護等、面的で総合的な交通事故抑止対策を実施する。
また、死傷事故が多発している交差点等において、道路管理者と連携し、見やすく分かりやすい道路標識・標示等を集中的に整備する。
- 交通管制センターの高度化、光ビーコンの整備拡充、交通情報提供の高度化及びUTMS（新交通管理システム）の実用化による交通管理の最適化を図る。
- 昭和60年前後に整備された交通安全施設が耐用年数を満了し、大量更新時代を迎えることから、老朽化した機器を順次、交通情勢の変化に対応できる高度化改良を推進する。